

ロボット適用率拡大により実現する、溶接自動化と省人化への挑戦

A challenge to Achieve Welding Automation and Labor Reduction Through Expanded Robotic Applicability

これまで自動化が困難だった溶接をロボット化し、適用領域の拡大と省人化のさらなる推進に貢献。

Enabling previously non-automatable difficult welding with robots—expanding application coverage while accelerating labor reduction simultaneously.

角巻溶接の自動化

これまで半自動溶接でも難しかった角巻溶接をソリッドワイヤとロボットで自動化

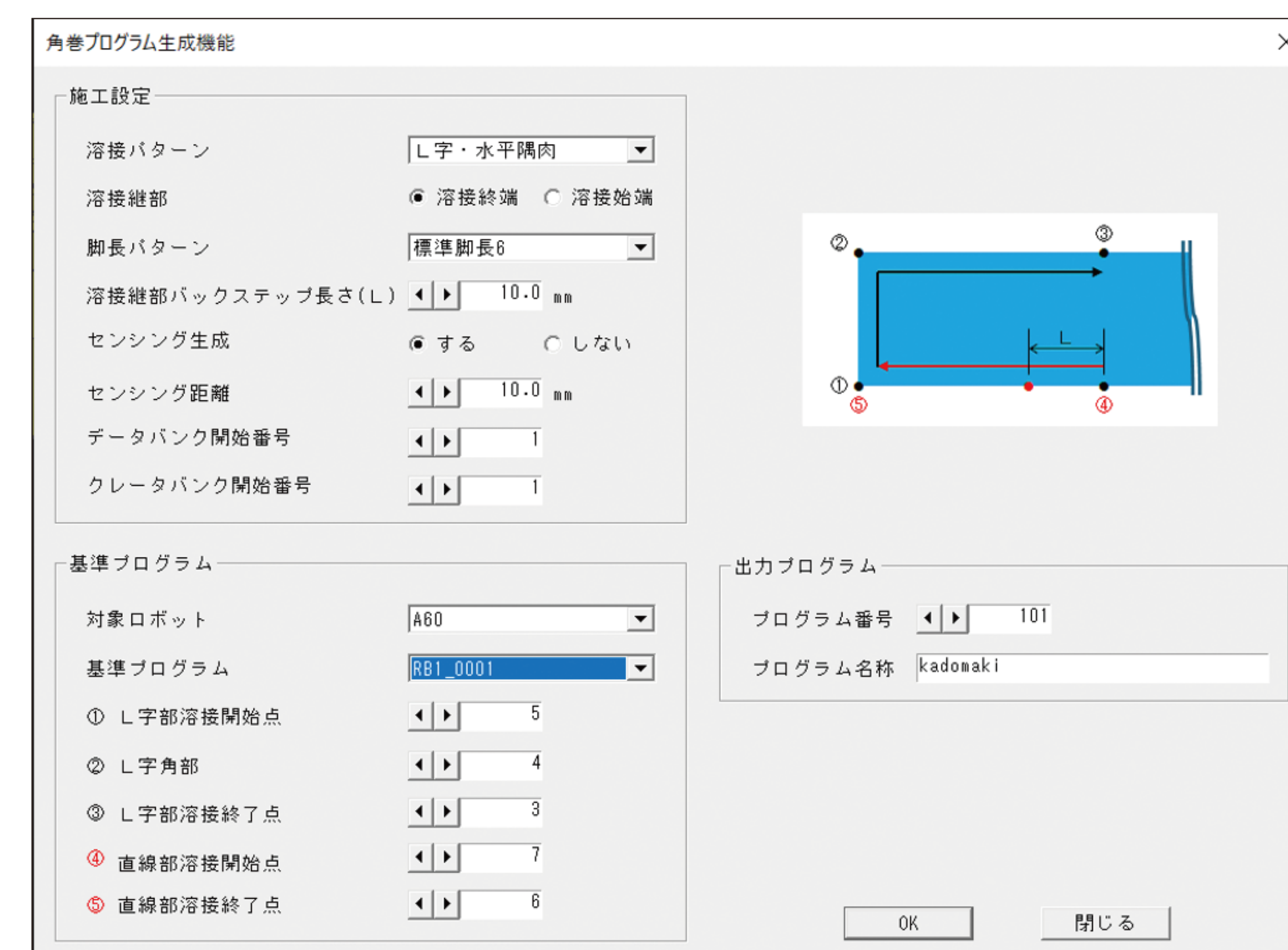


脚長8mm

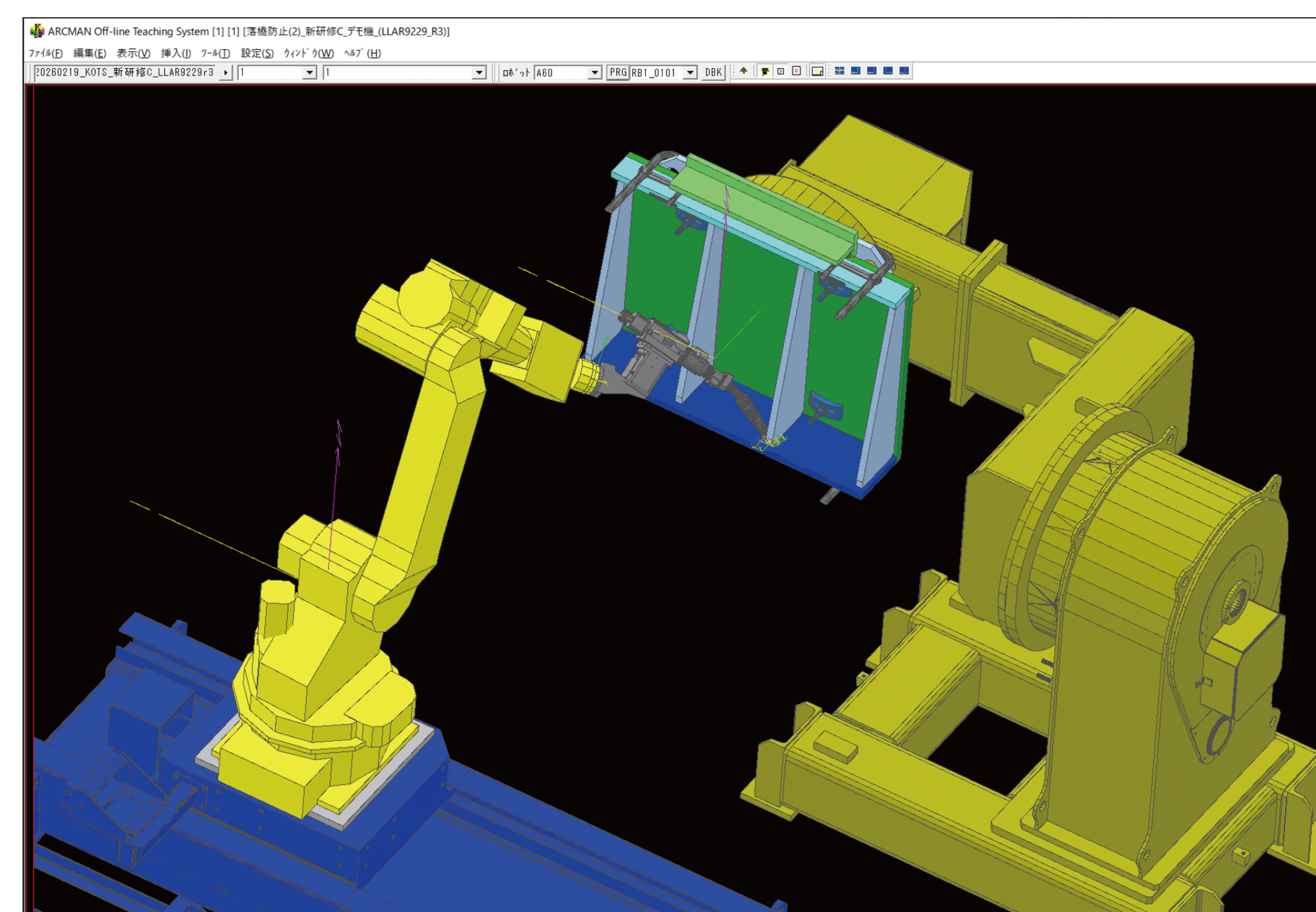


脚長12mm

- 溶接したい部位の4点を教示し、**ARCMAN™** Off-line Teaching Systemに搭載した新機能にて自動的に複雑な教示点と溶接条件を挿入
- 人の手でも困難な角巻溶接をロボット適用することで、後工程の負荷軽減・省人化に寄与！



KOTS内 角巻溶接プログラム自動生成画面(開発中)



角巻溶接プログラム自動生成後 KOTS画面(開発中)

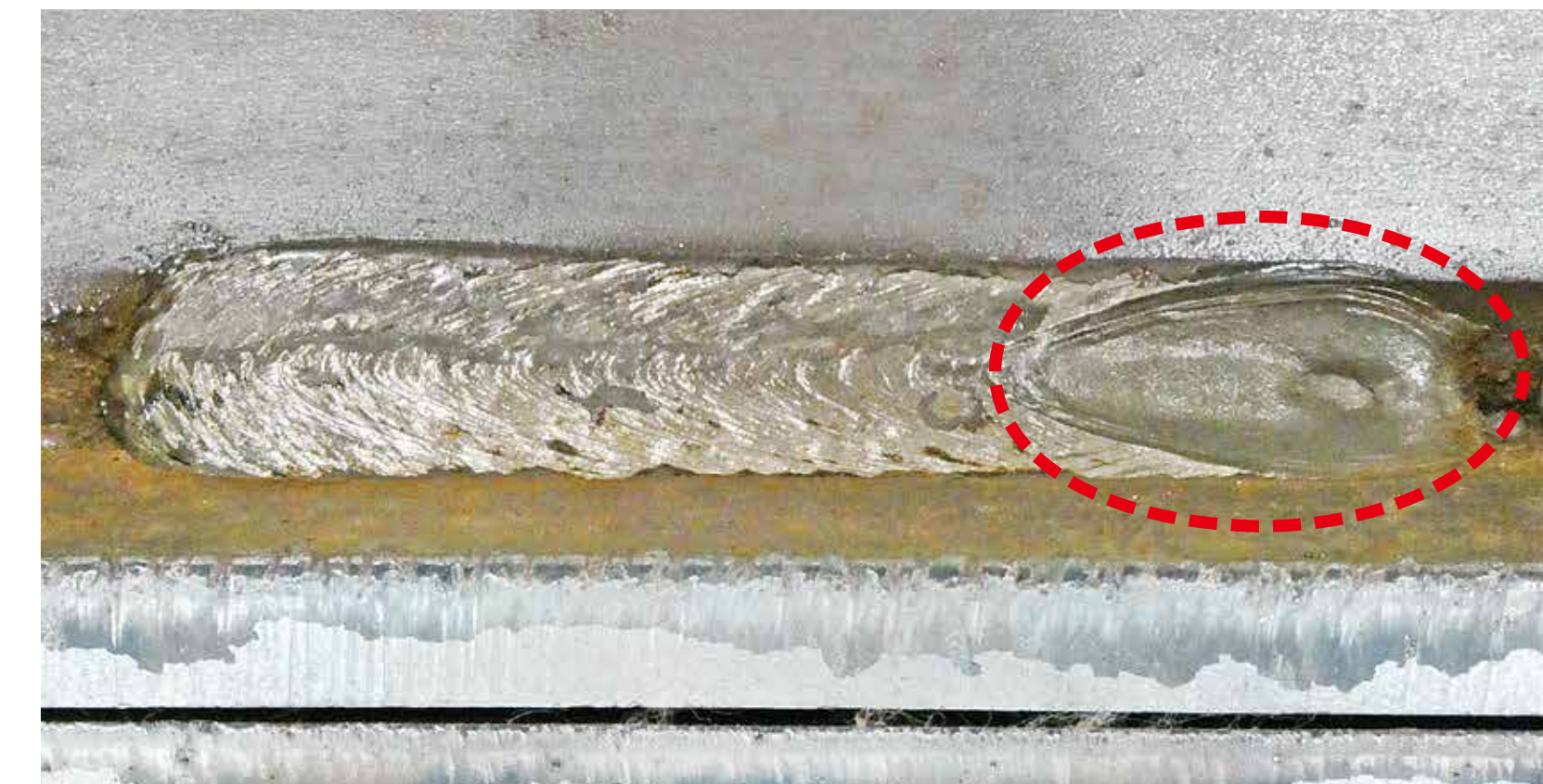
クレータバンク機能

クレータ部の凹みを解消し、滑らかでフラットなビードを実現。後工程作業を軽減。

機能構成

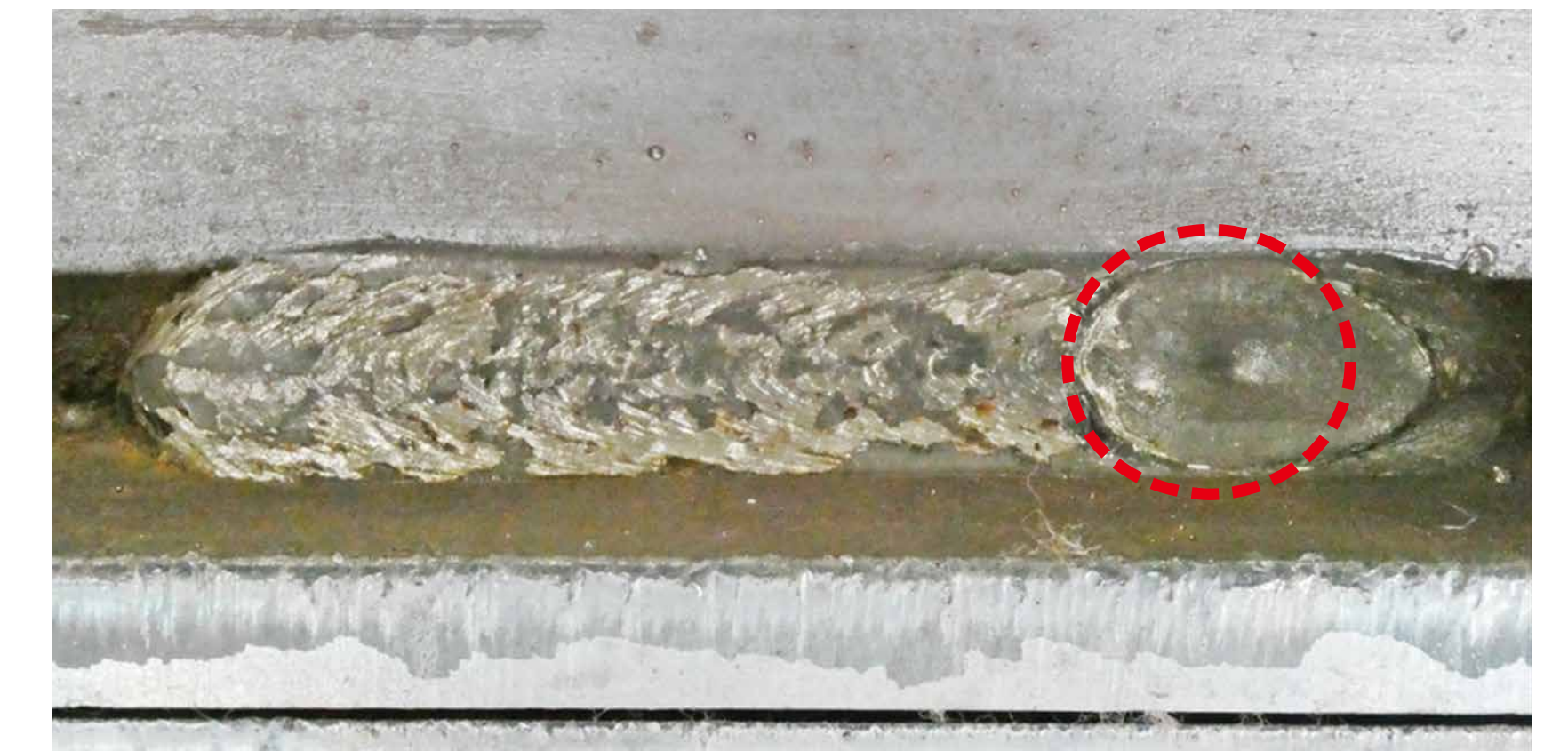
機能① 前後戻り動作

溶接線方向に前後動作させ大きなクレータの凹みを埋める



機能② 再アーク動作

クレータ処理終了後の収縮孔を埋める



※下向きすみ肉脚長12mm

クレータバンク機能 使用時

溶接施工例

水平すみ肉 脚長12mm



50°V形開先
板厚25mm ルートギャップ5mm



45°レ形開先
板厚25mm ルートフェイス3mm

